

丸亀市人口ビジョン・丸亀市未来を築く総合戦略（素案）に関する意見

1. パブリックコメントの概要

意見募集期間 平成 27 年 9 月 19 日（土）～10 月 18 日（日）

意見提出者数 2 名

意見提出件数 15 件

2. 意見の概要と市の考え方

番号	意見の概要	市の考え方
1	子育て支援においては、ソフト面の充実に重点を置くべきである。	本総合戦略の基本目標 1 にある基本施策「結婚・妊娠・出産・子育てに対する不安の解消」や「子育て環境の充実」の中で、ソフト面の充実に図りたいと考えています。
2	仕事や地域活動などを通じて、人と人がつながり、生活の土壌を築いていけるようなまちを目指すべきである。	本総合戦略では、人口の減少が地域活力の低下を招かないよう、「ひと」と「しごと」の好循環や「ひとづくり重視」のまちづくりを志向しており、ご意見のようなまちをめざしたいと考えています。
3	表題は「丸亀市未来を築く総合戦略」とすべきである。	国の求めていることは、「地方人口ビジョン」と「地方版総合戦略」の策定であることから、表題として、両方を併記しています。
4	長寿者にも仕事に就いてもらう施策を活発化すべきである。	本総合戦略の基本目標 2 にある基本施策「働く環境の充実」や「地域産業の活性化」の中で、検討していきます。
5	育グラママ（祖母が孫の面倒をみる）を推進すべきである。	本総合戦略の基本目標 1 にある基本施策「結婚・妊娠・出産・子育てに対する不安の解消」や「子育て環境の充実」の中で、検討していきます。

6	活動している老人には補助金を出し、遊んでいる老人への補助金は極力減らすべきである。	補助金の見直しについては、行政改革など地方創生以外の分野で取り組んでいきます。
7	生産年齢人口（納税者）を増やす施策をあらゆる角度から検討すべきである。	本総合戦略の基本目標2「社会増をめざす」の中で、検討していきます。
8	若者、子どもにとって住みやすいまち（勤めができるまち）を高齢者の住みやすさに優先すべきである。	本戦略では、「人口減少に挑む」政策分野において、子どもや若者に向けた施策を中心に進める一方で、「人口減少に備える」政策分野においては、あらゆる世代を対象に、魅力と安心を高めていくこととしています。
9	本総合戦略に基づいて、広く市民に参加を呼びかけて部会を開催するとともに、1～5年計画でPDCAを実施し、予算にも反映させるべきである。	地方版総合戦略におけるPDCAサイクルによる効果検証・改善は、国からも厳に求められているところであり、本総合戦略においても、P41、42に記載しているとおり、進行管理を行っていきます。
10	10/7政府発表の経済最優先に沿った戦略が望まれる。いかなる福祉、教育等の施策も経済上の余裕を持たなければ、机上の空論である。	常に国の動向を注視しながら、人口減少対策、地方創生に向けた基礎自治体としての役割を果たしていきます。
11	P31の成果目標「出生数」が5,091人（2010～2014年）から4,900人（2015～2019年）に減っていることについて説明して欲しい。	人口ビジョンにある丸亀市独自推計に沿うと、2015～2019年に確保すべき出生数は4,900人になり、これは社人研推計より約570人多い数値です。丸亀市独自推計は、人口減少時代を迎える中で、極力、本市の人口減少を食い止めるという将来展望のもと設定したものであり、それに従った目標設定としています。
12	KPIの2015年から2019年の予測値はないのか。	KPIは目標値であり、予測はしていません。PDCAサイクルにより、実績値を進行管理していきます。

13	<p>P 39 の成果目標「現在、困りごとや不安が特にないと答えた人の割合」が 32.3% (2015 年) から 33.3% に増えることについては、1 ポイント上昇がどれほどの意味を持つのか分かりにくい。</p>	<p>再検討した結果、2019 年の目標値を 33.3% から 40% に上方修正することとしました。</p>
14	<p>P 40 「地域コミュニティの進化」以前の問題として、自治会加入のメリットとデメリットを打ち出し、加入促進を進めるべきである。</p>	<p>市としては、それぞれ地域性や特色を持つ自治会について、メリットやデメリットを打ち出すことは難しいですが、本総合戦略では、地域の特性を生かした自主的なコミュニティ活動を活性化することで、地域の絆の広がりや生活の安心に繋がりたいと考えています。</p> <p>その中で、市としての自治会加入促進策についても検討します。</p>
15	<p>人型グラフ等を用いて、分かりやすくすべきである。</p>	<p>策定にあたっては、グラフや表に限らず、表現、構成など全体を通じて、分かりやすさ、伝わりやすさを追求していきます。</p>